

ふるさと応援団木島平会会報

8月6日 第27回 木島平村夏祭り開催

8月6日、村の中央グラウンドで、「第27回 夏祭り」が開催されました。

今年、「がんばろうニッポン 震災追悼・復興祈願」をテーマとした夏祭りです。今までの夏祭りに合わせて、被災者の追悼と復興を祈願して、調布市深大寺の御住職と村内の寺院のみなさんとの読経と、献花が行われました。



勢の皆さんが来村されました。

「からす踊り」や「木島平どどんか」、「調布音頭」など踊りの輪に加わり木島平の夏の夜を楽しめました。最後には、震災の影響で中止となった調布市花火大会の花火がこの夏祭りで打ち上げられ、例年の2.5倍にあたる1,250発が打ち上げられ、会場からは大きな歓声が上がっていました。



写真

夏祭りの様子…右
深大寺ご住職…上

8月28日 村ぐるみ防災訓練

8月28日、地震と大雨を想定した「村ぐるみ防災訓練」が開催されました。朝、ペーキング放送で、村内に訓練開始の合図が流れると、各区では、順次、区民の安否確認や要援護者の救助訓練が行われました。

さらに大雨により決壊の恐れがあると考えられた馬曲川流域の3区（庚、市之割、高石）では、分館に一次避難した区民を木島平小学校へ避難させる避難訓練を行い、到着後は、岳北消防本部による救助訓練や救出訓練、AED訓練を行いました。



ここ30

年以内に直下型地震が起こる確率は、70%と言われています。日頃から震災等の自然災害に備え、非常食等の備蓄をしたり、避難場所を再度確認し、有事に備えたいところです。



写真

車からの救助訓練…右
小学校へ避難する皆さん…上

ふるさと応援団木島平会10周年をお祝いして

木島平米ブランド研究会 会長 佐藤 正市

ふるさと応援団木島平会が発足して早10年。柳沢前村長の時に、今の芳川村長が担当課長として取り組まれたことを思い出しています。

私たち木島平米ブランド研究会も、幾多の変遷を得て現在に至っています。当初、数人の有志で今後の農業は「有機」がキーワードと先進地などを視察し、将来の木島平農業の姿を思い描きながらそれぞれの農業経営に工夫を凝らしながら進めてまいりました。村も「農業立村」を掲げ全面的な支援を頂き、スケールメリットを生かすべく大塚沖の再帰場整備に始まり、有機センターの建設や近々は除草剤を使わないことから思い出深い「田の草取り」を猛暑の中行っていました。年とともに体力的に厳しい状況と成っていましたが、このような中で、紙マルチ田植え機の補助を頂き手作業の「田の草取り」が格段に楽になっています。（紙マルチ田植え機とは、水田の田面に再生紙を敷き、その上に苗を植えつけることで、雑草の発芽を妨げることが出来る田植え機で400万円弱します。）



木島平村有機センター

また、村は木島平米の知名度を上げるべく「村長の太鼓判」の発売をJ Aと協力して振興されています。今や木島平米は近隣では、ブランド米となっています。しかしながら米価もひと頃の3分の1にまで下落しており、スケールメリットを追求した大規模化に生き残りが掛けられています。木島平村の水田の総面積が限られることから水田を中心とした就農者は限られてきます。反面、畑作物は手がかかり、しっかりと作物を栽培すると2人で10aが精いっぱいではないでしょうか。やっと収穫時期を迎えても価格の変動で、出荷用の箱代にもならないこともあります。今年も価格の良かったズッキーニも500本植えて50万円程度。朝4時半から収穫して夜10時過ぎの選別終了。これが農家の実態です。

10月8日(土)

木島平い～なか交流フェスタ in 調布

姉妹都市15周年をきっかけに始まった、「木島平い～なか交流フェスタ in 調布」ですが、今年も10月8日(土)調布市グリーンホールにて開催されます。

当日は、鬼島太鼓の演奏や、常田富士男さんが代表の「農民芸術ふう太の杜」の朗読劇、さらに木島平村の特産品があたる! 「お楽しみ抽選会」も行います。

詳細は別紙チラシをご覧ください。なお、同封されている招待券をご持参された方には、平成の名水百選を、ペットボトルに凝縮した「龍興寺清水」をプレゼントします。

ご家族、ご近所お誘いのうえ、ご参加ください。



ふるさと応援団木島平会の皆さんは、ふるさと木島平の動静に注目していただいております。遊休荒廃の進む郷土の耕地を守っていただくには、荒れ放題の先祖からの土地を耕していただくことだと思います。収益性を考えれば、今畑を借りる農業者はいまません。お金を出せば借りてくれるとの話もありましたが、残念ながら村の農業者に余力はありません。ぜひ、木島平村のため自らの畑を耕していただけないか。病虫害や鳥獣害の巣になっている荒廃農地は、減農薬を進める有機の里にふさわしくありません。

また、農業者の経営を向上するには農産物の価格向上が必須です。新規就農者は、想いだけでは増加しません。生活の成り立つ経営が必要です。木島平の農産物が、今の数倍の価格で流通することが夢でもあります。更なるふるさと応援団木島平会の御隆盛と、会員各位の御健勝そして旧に倍する木島平農業への御支援をお願いし、10周年のお祝いいたします。



村長の太鼓判出発式にて

(左が会長)